



シダ(羊歯)植物

ヒカゲヘゴ、ワラビ、イワデンダ、
コウヤワラビ、コタニワタリ、ゼンマイ

盛岡森林管理署 森林技術指導官 松尾 亨

地球に出現した初期の植物種であるシダは、3億年を経た今も現存し美しい文様やユニークな形態で楽しませてくれています。今回は身近なシダとヘゴを紹介します。

シダの生活様式としては、光合成で養分を作る栄養葉と裏面で孢子を作る孢子葉が一枚の**ワラビタイプ**と、別々に栄養葉と孢子葉を作る**ゼンマイタイプ**があり観察のポイントとなります。全国的に食用とされるワラビですが、夏にはこんな感じに繁茂し葉の裏面の縁に茶色の孢子嚢を形成し始めます。イワデンダも同じタイプで、裏面に写真のような丸い孢子嚢を付け、丸みのある葉が特徴です。由来は岩上に生えるデンダ(シダの古名)。コタニワタリは革質の葉がくさび形で束生し、孢子嚢は裏面に平行な線形で並び特徴的です。次にナムルでおいしいゼンマイは、くるくるした新葉から栄養葉が広が

る頃に写真のような孢子葉を出します。コウヤワラビもゼンマイタイプで写真のような孢子葉を秋に出します。葉が大きく切れ込み田の畦や林縁で見かけ、名の由来は高野山に産すること。最後に身近なシダではありませんが、沖縄など暖地に生息しジャングルを構成し、日本の羊歯では大型で8mほどになるヒカゲヘゴは、葉痕の模様がおもしろく蘭などの着生もあり魅力的です。

シダの葉の文様は東洋・西洋問わず使われています。百人一首に「陸奥の しのぶもぢずり 誰ゆえに 乱れそめにし・・・」と言う和歌があります。しのぶもぢずりは、シノブシダを染料とした乱れ模様の衣の柄で、「忍恋の心の乱れと乱れ模様」をかけています。産地は福島信夫地方と言われシノブの由来にもなっており、平安時代の東北はおしゃれの先端地かもね！



ヒカゲヘゴ



ワラビ



イワデンダ



コタニワタリ



ゼンマイ



コウヤワラビ